

平成 31 年度

事業報告

社会福祉法人ベタニヤホーム

目 次

○平成 31 年度 社会福祉法人ベタニヤホーム 事業報告案	1
【各拠点事業報告】	
○平成 31 年度 法人本部 事業報告案	2
○平成 31 年度 母子生活支援施設 ベタニヤホーム 事業報告案	10
○平成 31 年度 菊川保育園 事業報告案	18
○平成 31 年度 富士見保育園 事業報告案	23
○平成 31 年度 こひつじ保育園 事業報告案	28

平成31年度社会福祉法人ベタニヤホーム事業報告 ～平成31年度を振り返って～

平成31年度も、キリスト教の隣人愛の精神と社会福祉の理念に基づく社会福祉法人ベタニヤホームの基本理念の実現と使命を果たすべく、また、社会福祉法人として法に基づく適正な組織運営とガバナンスの強化を図るため、取り組むべき課題を掲げ実践した。

一つは、法人本部事務局の体制及び機能の強化が数年来の課題であったが、その取り組みの初年次として、新たに事務長を配置し事務局職員の採用を行った。

また、経営委員会、施設連絡協議会の2つ組織について、会議の位置付け、性格付けなどを検討し、規程化作業を開始したほか、委員構成や会議への役員のオブザーブ方法の見直しを行い、組織運営会議等の体系化をすすめた。

その他、各種例規類の見直しもすすめ、徐々に法人の現況に整合したものへと整備を図っている。

二つ目に、ベタニヤホームの働き人への基本姿勢である賃金規程の改定について、今年度は、人事評価制度について、人材育成とコミュニケーションツールとして、また、より合理的な制度となるように賃金規程等検討委員会で検討を重ね、提言をまとめた。令和2年度を新たな人事評価制度の試行期間として令和3年度の本格実施に向けてさらなる検討を行うとともに、職員への周知をすすめ、具体的な試行を重ねていく予定である。

三つ目に、母子生活支援施設の建替え工事については、資金繰りから旧施設の取り壊し、仮設建設・移転、設計変更など様々な課題を乗り越えて計画の全工程を終え、4月30日に竣工を迎えた。竣工した新たな施設においては、ベタニヤホームならではの支援事業と施設運営に真摯に取り組むとともに、有為な人材の育成を図っていきたいと考えている。

四つ目に、保育園事業に関しては、懸案の「ベタニヤホームの保育理念の確立」を、保育ブロック業務担当理事を中心に、法人内施設横断的相互研修の企画、実施など、徐々に取り組みを広げているところであるが、今後の人材育成には、ベタニヤホーム憲章に基づく実践と職員一人ひとりの職業観を結び付け、法人全体で母子支援や保育などの現場や組織マネジメントを柱とした人材育成方針及び研修体系と研修計画を策定し、実践につなげていきたいと考える。

そして、教会との関わりについては、今年度も様々な祈りの場をご提供いただいた。聖パウロ教会は、礼拝や理事会、各種委員会などの会場として協力いただいたこと、また、引き続き、何人かの現役、引退の教職の方々に理事、評議員、チャプレンなどの働きをしていただいたことに感謝したい。

なお、内海 望元理事長が、令和元年5月に召天されたことを特記しておく。

最後に、今年度は大規模な台風被害が各地にもたらされたことや今年1月以降、新型コロナウイルス感染症の流行、蔓延など、業務に大幅な支障をきたすことが重なった。今日に至っても法人の各施設では、新型コロナウイルス感染症の対応に務めているところである。これまでのところ利用者及び職員等に罹患者はないが、ベタニヤホームの本来の働きが果たせるよう、一日も早い収束を願うばかりである。

平成31年度法人本部事業報告

1. 理事会 開催7回

第1回	令和元年6月6日	出席	理事 7人	監事 2人
<p><決議事項></p> <p>議案第1号 平成30年度事業報告及び決算報告の承認について</p> <p>議案第2号 菊川保育園の門扉修繕工事施行業者の選定について</p> <p>議案第3号 社会福祉法人ベタニヤホーム賃金規程の一部改正について</p> <p>議案第4号 次期理事選任候補者及び次期監事選任候補者の推薦について</p> <p>議案第5号 評議員選任候補者の推薦について</p> <p>議案第6号 平成31年度第1回評議員選任・解任委員会の招集について</p> <p>議案第7号 平成31年度第1回評議員会（定時評議員会）の招集について</p> <p>議案第8号 平成31年度第2回理事会の招集について</p> <p><報告事項></p> <p>1 富士見保育園2階ベランダの防水工事施行報告について</p> <p>2 平成30年度予備費の使用報告について</p> <p>3 平成30年度事業報告並びに計算関係書類及び財産目録に関する監事監査報告について</p> <p>4 平成30年度決算に基づく社会福祉充実残額について</p> <p>5 経営組織の点検に関わる第三者委員会の第三者性疑義について</p>				
第2回	令和元年6月22日	出席	理事 6人	監事 0人
<p><決議事項></p> <p>議案第9号 理事長及び業務ブロック担当理事の選定について</p> <p>議案第10号 母子生活支援施設建て替え準備室の解消について</p> <p>議案第11号 社会福祉法人ベタニヤホーム嘱託職員就業規則の一部改正について</p> <p>議案第12号 平成31年度第3回理事会の招集について</p> <p><報告事項></p> <p>1 評議員の選任報告について</p> <p>2 理事の退任報告について</p> <p>3 役員賠償責任保険及び役員災害補償保険への加入について</p>				
第3回	令和元年7月20日	出席	理事 5人	監事 1人
<p><決議事項></p> <p>議案第13号 社会福祉法人ベタニヤホーム就業規則の一部改正について</p> <p>議案第14号 社会福祉法人ベタニヤホーム賃金規程の一部改正について</p> <p>議案第15号 非常勤職員への退職金の支払いについて</p> <p><協議事項></p> <p>1 理事の増員について</p> <p><報告事項></p> <p>1 平成31年度予備費の使用報告について</p>				

- 2 母子生活支援施設建替え準備室の解消について
- 3 社会福祉法人ベタニヤホーム経営委員会委員について

第4回 令和元年10月3日 出席 理事 6人 監事 2人

<決議事項>

- 議案第16号 平成31年度法人本部拠点区分資金収支補正予算（補正第1号）
- 議案第17号 母子生活支援施設ベタニヤホーム施設整備事業におけるマンホールトイレの設置について
- 議案第18号 理事選任候補者の推薦について
- 議案第19号 平成31年度第2回評議員会の招集について

<報告事項>

- 1 平成31年度法人本部拠点区分資金収支予算の流用報告について
- 2 平成31年度法人本部拠点区分予備費の使用報告について
- 3 母子生活支援施設建替え工事の進捗状況について
- 4 苦情解決第三者委員会の開催報告について
- 5 創立96周年記念会の開催報告について
- 6 賃金規程検討委員会の設置について
- 7 弁護士との顧問契約の締結及び退職職員への対応経過について
- 8 理事長及び業務執行理事の業務の執行状況報告について

第5回 令和元年11月27日 出席 理事 6人 監事 1人

<決議事項>

- 議案第20号 港区母子生活支援施設指定管理者の公募申請について
- 議案第21号 社会福祉法人ベタニヤホーム経理規程の一部改正について
- 議案第22号 社会福祉法人ベタニヤホーム育児・介護休業等に関する規則の一部改正について
- 議案第23号 社会福祉法人ベタニヤホーム苦情解決第三者委員会規則の一部改正について
- 議案第24号 平成31年度上半期職員の人事評価について

<協議・確認事項>

- 1 役員の選定に向けて

第6回 令和2年1月21日 出席 理事 7人 監事 2人

<決議事項>

- 議案第25号 平成31年度母子生活支援施設ベタニヤホーム拠点区分資金収支補正予算（補正第1号）
- 議案第26号 平成31年度菊川保育園拠点区分資金収支補正予算（補正第1号）
- 議案第27号 平成31年度富士見保育園拠点区分資金収支補正予算（補正第1号）
- 議案第28号 平成31年度こひつじ保育園拠点区分資金収支補正予算（補正第1号）
- 議案第29号 理事長の選定について
- 議案第30号 平成31年度第3回評議員会の招集について

<協議・確認事項>

- 1 法人の経営組織と関係諸規程について

<報告事項>

- 1 平成 31 年度母子生活支援施設ベタニヤホーム拠点区分資金収支予算の流用報告について
- 2 母子生活支援施設ベタニヤホーム・菊川保育園のマンホールトイレの整備に向けて
- 3 母子生活支援施設ベタニヤホームにおけるパソコン購入報告について
- 4 菊川保育園におけるパソコン購入報告について
- 5 賃金規程等検討委員会の検討状況報告について
- 6 2019 度のクリスマス献金集計報告について
- 7 職員の格付け及び賃金の決定について

第 7 回 令和 2 年 3 月 19 日書面決議 理事 全 7 人同意 監事 全 2 人確認

<決議事項>

- 議案第 31 号 平成 31 年度菊川保育園拠点区分資金収支補正予算（補正第 2 号）
議案第 32 号 平成 31 年度富士見保育園拠点区分資金収支補正予算（補正第 2 号）
議案第 33 号 平成 31 年度こひつじ保育園拠点区分資金収支補正予算（補正第 2 号）
議案第 34 号 社会福祉法人ベタニヤホーム定款の変更について
議案第 35 号 社会福祉法人ベタニヤホーム母子生活支援施設ベタニヤホーム管理規定の一部改正について
議案第 36 号 社会福祉法人ベタニヤホーム就業規則の一部改正について
議案第 37 号 社会福祉法人ベタニヤホーム賃金規程の一部改正について
議案第 38 号 賃金規程等検討委員会からの提言報告の承認について
議案第 39 号 平成 31 年度職員の人事評価について
議案第 40 号 令和 2 年度事業計画及び資金収支予算の承認について
議案第 41 号 平成 31 年度第 4 回評議員会の招集について

<報告事項>

- 1 平成 31 年度母子生活支援施設ベタニヤホーム拠点区分資金収支予算の流用報告について
- 2 こひつじ保育園におけるパソコン購入報告について

2. 評議員会 開催 4 回

第 1 回 令和元年 6 月 22 日 出席 評議員 8 人 理事 1 人 監事 2 人

<決議事項>

- 議案第 1 号 平成 30 年度事業報告及び決算報告の承認について
議案第 2 号 次期理事及び次期監の選任について

<報告事項>

- 1 平成 30 年度事業報告並びに計算関係書類及び財産目録に関する監事監査報告について
- 2 平成 30 年度決算に基づく社会福祉充実残額について
- 3 富士見保育園 2 階ベランダの防水工事施行報告について
- 4 菊川保育園の門扉修繕工事施行业者の選定報告について

第 2 回 令和元年 10 月 15 日 出席 評議員 6 人 理事 1 人

<決議事項>

議案第 3 号 平成 31 年度法人本部拠点区分資金収支補正予算（補正第 1 号）

議案第 4 号 理事の選任について

<報告事項>

- 1 平成 31 年度法人本部拠点区分資金収支予算の流用報告について
- 2 平成 31 年度法人本部拠点区分予備費の使用報告について
- 3 母子生活支援施設建替え工事の進捗状況について
- 4 母子生活支援施設ベタニヤホーム施設整備事業におけるマンホールトイレの設置について
- 5 苦情解決第三者委員会の開催報告について
- 6 創立 96 周年記念会の開催報告について
- 7 賃金規程検討委員会の設置について
- 8 弁護士との顧問契約の締結及び退職職員への対応経過について
- 9 理事長及び業務執行理事の業務の執行状況報告について

第 3 回 令和 2 年 1 月 29 日 出席 評議員 7 人 理事 2 人

<決議事項>

議案第 5 号 平成 31 年度母子生活支援施設ベタニヤホーム拠点区分資金収支補正予算（補正第 1 号）

議案第 6 号 平成 31 年度菊川保育園拠点区分資金収支補正予算（補正第 1 号）

議案第 7 号 平成 31 年度富士見保育園拠点区分資金収支補正予算（補正第 1 号）

議案第 8 号 平成 31 年度こひつじ保育園拠点区分資金収支補正予算（補正第 1 号）

<報告事項>

- 1 平成 31 年度母子生活支援施設ベタニヤホーム拠点区分資金収支予算の流用報告について
- 2 母子生活支援施設ベタニヤホーム・菊川保育園のマンホールトイレの整備に向けて
- 3 母子生活支援施設ベタニヤホームにおけるパソコン購入報告について
- 4 菊川保育園におけるパソコン購入報告について
- 5 賃金規程等検討委員会の検討状況報告について
- 6 2019 年度のクリスマス献金集計報告について
- 7 理事長の選定報告について

第 4 回 令和 2 年 3 月 27 日 書面決議 評議員 全 9 人同意

<決議事項>

議案第 9 号 平成 31 年度菊川保育園拠点区分資金収支補正予算（補正第 2 号）

議案第 10 号 平成 31 年度富士見保育園拠点区分資金収支補正予算（補正第 2 号）

議案第 11 号 平成 31 年度こひつじ保育園拠点区分資金収支補正予算（補正第 2 号）

議案第 12 号 社会福祉法人ベタニヤホーム定款の変更について

議案第 13 号 令和 2 年度事業計画及び資金収支予算の承認について

<報告事項>

- 1 平成 31 年度母子生活支援施設ベタニヤホーム拠点区分資金収支予算の流用報告について

- | | |
|---|---|
| 2 | 社会福祉法人ベタニヤホーム母子生活支援施設ベタニヤホーム管理規定の一部改正について |
| 3 | 社会福祉法人ベタニヤホーム就業規則の一部改正について |
| 4 | 社会福祉法人ベタニヤホーム賃金規程の一部改正について |
| 5 | 賃金規程等検討委員会からの提言報告について |
| 6 | こひつじ保育園におけるパソコン購入報告について |

3. 監事監査 開催1回(2日間)

- 令和元年5月23日 出席 監事(業務)1名 各拠点職員
内容 平成30年度事業報告について監査
- 令和元年5月25日 出席 監事(会計)1名 各拠点職員
内容 平成30年度計算関係書類及び財産目録について監査

4. 各種委員会等の活動

(1) 経営委員会 12回開催

- 委員 松田繁雄理事長、川島克之理事、鷲見達也理事、和田真弓理事
- 主な協議内容

理事会上程議案のほか下記のような事項について協議を行った。また、今年度は、特に台風・豪雨・洪水等の災害や新型コロナウイルス感染症蔓延による影響についても協議を行い、将来も見込まれる災害対策を早急に講じる必要性を確認した。

- ・母子生活支援施設の建替え
- ・賃金規程をはじめとする諸規程・規則の改正
- ・港区母子生活支援施設指定管理者の募集について
- ・今後の組織運営体制(経営組織、業務執行)づくりに向けて
- ・令和2年度事業計画
- ・母子生活支援施設の災害トイレの設置
- ・顧問弁護士との契約
- ・経営組織の点検に関わる第三者委員会提出資料を受けて理事・評議員懇談会の開催
- ・母子生活支援施設建替え準備室の解消
- ・理事及び監事の改選 ほか

(2) 施設連絡協議会 11回開催

- 構成員 理事長、業務ブロック担当理事、各園長・施設長、事務長
- 主な協議内容等

- ・新型コロナウイルス感染症対策について
- ・理事会・評議員会上程議案について
- ・令和2年度事業計画・予算編成について
- ・平成31年度各拠点区分資金収支補正予算について
- ・規程・規則の一部改正について
- ・苦情解決等第三者委員会検討事項の公表について
- ・ベタニヤホーム創立記念会、永年勤続表彰について

- ・役職員合同クリスマス礼拝、クリスマス献金について
- ・東京大空襲犠牲者追悼礼拝・講演会について
- ・東京都福祉サービス第三者評価の実施について
- ・監事監査に向けて（平成30年度事業報告及び決算について）ほか

(3) 苦情解決第三者委員会 1回開催

- 委員 藤田寿彦、新井尚恵、市川直美、下田信二郎、綱 春子（敬称略）
- 開催日 令和元年9月19日（木）
- 場所 日本福音ルーテル 聖パウロ教会
- 対象期間 平成31年2月23日～令和元年9月19日

●苦情等対応状況

施設 案件	母子生活 支援施設	菊川 保育園	富士見 保育園	こひつじ 保育園
苦情	0	1	0	1
意見・要望	0	1	0	0

- 情報公開 苦情等対応状況及び当該委員会からの意見やアドバイスについて、法人及び各施設のホームページに掲載した。

(4) 賃金規程検討委員会 7回開催

人事評価制度の見直しを行い、職員一人ひとりが働くことの喜びや働き甲斐を感じられ、それぞれの成長を支えることができる人事評価制度としていくことを目的に検討を行った。目標管理シート及び行動評価シートを作成したほか、令和2年3月に提言報告書をまとめた。

- 委員 松田繁雄理事長（委員長）、川島克之理事（副委員長）、和田真弓理事、伊藤 操理事、伊丹 桂施設長、尾木一江園長、松田亮太園長、事務長 オブザーバー（株）MAN90・鳴瀧泰史氏
- 提言内容 新たな人事評価制度は、下記のような目的を持った仕組み・ツールとしていくことを目指し、令和2年度は本格実施に向けての試行期間とした。
 - ・人材育成に必要なコミュニケーション機会とするため
 - ・働きがいやモチベーションの向上のため
 - ・自身の成長を客観的に理解するため
 - ・自己実現につなげる道標とするため

5. 防災・防犯と安全管理

(1) 台風及び水害対策

台風19号上陸、通過の際、「台風による各施設業務状況報告書」を作成し、利用者、職員及び施設・設備等の法人内施設の被災状況や業務遂行環境について、迅速に法人本部で集約し、対応協議ができるよう備え、報告書をもとに実践した。

(2) 新型コロナウイルス感染症対策

令和2年2月14日以降、継続的に新型コロナウイルスに関する情報を法人内で共有した。常勤・非常勤等すべての職員が安心して働けるよう本法人における休暇の取り扱いと所得補償について、3月10日開催の経営委員会にて方針決定し、各施設職員へ周知を図った。特別有給休暇の取得、国等の助成金等も可能な限り活用することとした。4月7日の非常事態宣言発出以降は各自治体と連携を図り、休園措置や登園自粛依頼を継続している。

6. 環境整備

(1) 保健衛生

新型コロナウイルス感染症対策として、諸会議を3月11日以降中止としたほか、法人本部事務局内にも消毒液の設置、職員は出勤前の検温、マスク着用、手洗い等の励行を徹底するとともに、交代による在宅勤務を実施した。

(2) 理事長打合せの実施

平成31年4月より原則月2回の理事長及び法人本部との定例打合せを設定し実施した。

(3) 経営組織の点検に関わる第三者委員会提出資料を受け理事・評議員懇談会を開催した。

7. 人材育成

(1) 実務研修（職員）

社会福祉法人会計実務セミナー、東京都社会福祉協議会従事者共済会システム研修、平成31年度年末調整研修

(2) 一般研修（役員・職員）

るうてる法人会連合総会・研修会、ルーテル社会福祉協会総会、ルーテル学院大学創立110周年講演会、千葉ベタニヤホーム総会・研修会、ルーテル教会東教区2020年総会

8. 広報

(1) 機関紙「ベタニヤホームだより」の発行

- ①仕様等 A4版6ページ、カラー刷、2019年夏号より季刊発行、郵送配付等
- ②発行回数 年4回（8月、10月、1月）※8月は2号同時発行
- ③発行部数 第129号～第132号（2020年冬号） 各810部
- ④紙面編集 法人内各施設より職員が参画する編集委員会により企画、編集

(2) ホームページの運用

法人のホームページの安全で効果的な運用を目的に、各施設の職員が参画するホームページ委員会でアクセス数等運用状況や掲載情報の更新等の確認を行った。（5月、9月、1月）

(3) 墨田区立すみだ郷土文化資料館企画展「保育のまち すみだ」への協力

昨夏、当法人に対し所蔵資料の提供依頼を受け協力を行った。当法人の母子生活支援施設ベタニヤホーム（本所ベタニヤ母子寮）、菊川保育園を含め、1世紀を超える区内の保育園の歩みが紹介された。企画展は、令和元年12月14日～令和2年2月11日で開催された。

9. 礼拝・記念会

(1) イースター礼拝

- 実施日／場所 令和元年4月27日（土）／日本福音ルーテル 聖パウロ教会

(2) 第96回ベタニヤホーム創立記念礼拝・役職員研修会

- 実施日／場所 令和元年9月14日（土）／富士見保育園
- 永年勤続表彰 7名
- 役職員研修会 講演「社会福祉施設における接遇について」

講師 株式会社MAN90 代表取締役 鳴瀧泰史氏

(3) 役職員合同クリスマス礼拝

- 実施日 令和元年12月14日(土)
- 礼拝 日本福音ルーテル 聖パウロ教会
- 交流会 浅草橋ベルモントホテル

(4) 第57回東京大空襲犠牲者追悼礼拝

令和2年3月7日に予定していた追悼礼拝及び記念講演会「東京大空襲の記憶～語り継ぐ戦争の悲惨さと平和への願い～」を新型コロナウイルス感染症の流行により中止した。

10. 職員の状況 (令和2年3月1日現在)

(単位:人)

拠点 勤務形態	法人本部	母子生活 支援施設	菊川 保育園	富士見 保育園	こひつじ 保育園	合計
常勤職員	1 (0)	11 (11)	28 (27)	27 (28)	23 (27)	90 (93)
非常勤職員	2 (2)	2 (4)	18 (23)	7 (7)	7 (7)	36 (43)
合計	3 (2)	13 (15)	46 (50)	34 (35)	30 (34)	126 (136)

※ () 内は平成30年度実績 (平成31年3月31日現在) おひさま保育室除く

(1) 平成31年度新規採用常勤職員 計10人

法人本部 1人 母子生活支援施設 2人 菊川保育園 3人
富士見保育園 2人 こひつじ保育園 2人

(2) 平成31年度退職常勤職員 計8人

- ①年度途中退職 こひつじ保育園 4人
- ②年度末付退職 菊川保育園 1人 富士見保育園 2人 こひつじ保育園 1人

(3) 令和2年度4月1日付新規採用常勤職員 計7人

菊川保育園 1人 富士見保育園 2人 こひつじ保育園 4人

11. 平成31年度を振り返って

平成31年度は、法人にとって大きな変化のあった一年となった。特に、台風による水害や新型コロナウイルスの蔓延は業務へ大きな支障をきたすこととなった。一方、長年の課題であった母子生活支援施設建替え事業を終始安全、無事故ですすめ、4月30日に竣工することができた。さらに、理事及び監事の一斉改選と法人本部事務局の体制一新を経て、令和2年5月1日から滞りなく新理事長へのバトンタッチがなされるよう整えることができたほか、職員の人事評価制度の見直し等をすすめ、よりよい働き方のできる環境づくりを行った。

12. 今後の課題

- 理事会及び評議員会の開催など法に基づく適正な社会福祉法人運営
- 竣工した母子生活支援施設の竣工式及び開所式等の実施
- 経営委員会及び施設連絡協議会の再開
- 組織体制の確立と整合する例規類の見直し
- 賃金規程等検討委員会の再開と新・人事評価制度実施に向けての試行実施
- 感染症を含む災害対策や100周年記念事業、富士見保育園園舎建替えの検討
- 礼拝の場の再開 など

**平成31年度
母子生活支援施設ベタニヤホーム事業報告**

1. 施設の利用状況

【平成31年度利用者数推移】

H31年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
世帯数	12	12	12	12	11	11	11	11	10	9	9	9
利用者数	26	26	26	26	24	24	24	24	22	20	20	20

- 平均利用世帯数：10.8 世帯
- 平均利用者数：23.5 人

2. 年間行事

	施設行事	母行事	礼拝
4月	消火避難訓練 (23日)	母の会 (6日) カレーの日 (23日)	イースター礼拝 (24日)
5月	子どもの日、母の日お祝い会 (11日) 消火避難訓練 (25日)		サムエル会 (22日)
6月	消火避難訓練 (25日)	防災体験 (8日) カレーの日 (25日)	花の日礼拝 (26日)
7月	消火避難訓練 (16日)	ソシオエステ (6日)	サムエル会 (24日)
8月	サマーパーティー (25日) 消火避難訓練 (27日)		サムエル会 (29日)
9月	消火避難訓練 (17日)	カレーの日 (17日)	サムエル会 (25日)
10月	消火避難訓練 (16日)	防災体験 (26日)	サムエル会 (23日)
11月	母子ハイイク (3日) 消火避難訓練 (26日)	カレーの日 (26日)	収穫感謝礼拝 (27日)
12月	クリスマス会 (21日) 消火避難訓練 (25日)		クリスマス礼拝 (25日)
1月	新年会 (11日) 消火避難訓練 (28日)		サムエル会 (22日)
2月	消火避難訓練 (28日)	防災教育、囑託医講和 (15日)	サムエル会 (26日)
3月	消火避難訓練 (24日)		

3. 平成31年度重点項目の取り組み

- 防災意識の涵養に注力し、職員の防災対応力を強化する検討を訓練、行事を通じて行った。
- 利用者ひとり一人のアセスメントを会議により実施し、支援者としての戦略を施設全体で共有した。また、その方針に則り支援を実施した。
- ケースカンファレンスにより決定した支援方針を「いつから」、「だれが」行うのかを

明確化した。

- 施設理念の浸透化、チーム支援力向上を目途とした平成30年度支援の振り返りを行うため、職員による研修（チームビルディング、及び利用者アンケートの結果分析）を行った。
- 外部研修にあっては、必要とされる知識を得られる研修を個別に付与した。
- 施設整備事業に注力した。

4. 防災・防犯と安全管理

(1) 防災訓練

年間消火避難訓練計画を基に、月1回定例訓練を行った。また、昨年度に引き続き防災委員会にて、BCP策定に向け整備を行った。

(2) 備蓄

非常食の定期点検と入れ替えを行った。その他、防災資器材の使い方、非常食の試食を利用者とともにを行い、非常時対応を学ぶ機会を設けた。

(3) 機材の導入

ライフライン等の確保について必要物品の見直しをおこなった。また、災害ボランティア派遣に必要な物品の導入と共に緊急時用の職員人数分の個人携行装備品を準備した。

5. 環境整備

(1) 保健衛生

- 害虫駆除（年2回、6月・10月実施）
- 水質検査（5月実施）
- 健康診断（母親は3Sメディカルクリニックにて年2回受診、学童は10月に嘱託医による健診を実施）
- 施設内定期消毒（感染症予防のため11月～3月の平日10時に実施）
- 職員インフルエンザ予防接種（11月嘱託医により実施）
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止策（1月以降朝昼の換気を追加実施。時差通勤の実施）

(2) 設備

仮説施設引越し後、居室トイレ水漏れや照明器具不具合、事務所インターフォンに不具合があり、その都度職員が対応した。また、必要に応じ業者への修理依頼を行った。

6. 人材育成

(1) 人材育成事業

- Off-JT研修は、のべ日数118日となった。
- 全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、東京都城東地区地域福祉施設協議会、日本キリスト教児童福祉連盟、東京都等が主催する研修、学習会に参加した。
- 他国の児童福祉と子どもの権利を学び、施設事業へ生かすため、資生堂社会福祉事業団の海外研修に参加した。
- 全職員が上級救命講習資格を取得することを施設の方針とし、取得、更新の研修に参

加した。

- 施設主催のチームビルディング、及び第三者サービス評価結果の分析、チャプレンによるキリスト教研修等、施設独自の自主研修を実施した。

(2) 実習指導

- 社会福祉士、保育士取得の実習生を受け入れた。
- 新型コロナウイルスの影響により養成校との連携を強化した。

(3) スーパービジョン

児童精神科医をスーパーバイザーとして招き実施した。年間4回（5月29日、9月11日、11月27日、2月12日）

7. 人権擁護

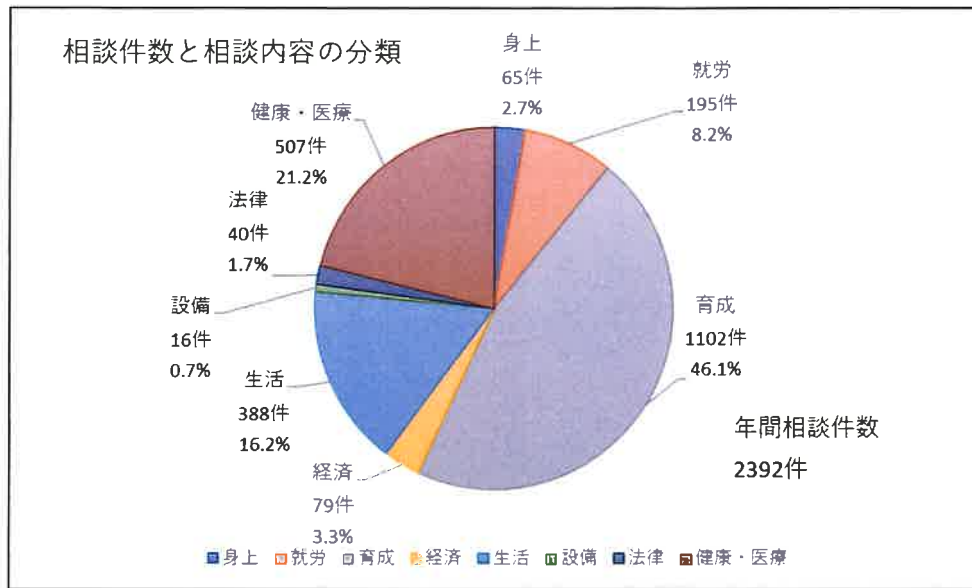
- 書面として提出する苦情案件はなかった。施設内で発生した苦情は全て口頭で職員に伝えられ、直ちに解決が図られた。
- 第三者サービス評価を受審し、利用者の意向や意見を聴取した。

8. 親子への支援

(1) 母親への支援

- 母親に対しては養育の価値観の押しつけや指導ではなく、保育士や保育園と連携することで、健やかな子育てができるようにアプローチし、親としての潜在的な強みを見立てることで、親自身の成長も鑑みた支援を行った。
- 就労経験を踏まえながら個別相談を行い、ハローワークへの同行、職業訓練やひとり親家庭向けの就労プログラムの紹介等を通して自立に向けての生活ができるような支援を行った。また、施設内にお仕事コーナーと称した掲示板を設置し、定期的にマザーズハローワークで収集した求人票や求職者向け講座案内等の掲示を行うことで就労への足掛かりとした。
- 生活上の課題を利用者と共に考え、家事掃除支援・登校登園支援等の必要な各種支援と、退所後の地域社会で生活する事を見据えた、具体的な生活のアドバイス等の支援を行った。また、入所期間中に利用者の出来る事、出来ない事を利用者と職員の間で共通認識を持ち、保健センターや療育機関等の社会資源を活用し退所後も支援機関との繋がりが持てるよう支援を行った。
- 母の会では、昨今の災害の多さから、利用者に防災の意識を高めるために、本所防災館の見学や炊き出し体験、防災ゲームを行った。
- 今年度より年4回「カレーの日」を設定し、職員と利用者で調理を行い、避難訓練に参加した世帯にカレーを配布した。母の家事負担を軽減し、疾患による就労困難、社会的孤立傾向のある母が施設内での居場所を見つけ、主体的活動に参加することで行動変容を促した。
- 入所前から各区の福祉事務所と入所希望者の情報について共有し、支援方針のすり合わせを行った。また、福祉事務所・児童相談所・子育て支援総合センター・学校・保育園と情報共有を行い、役割分担と共通理解を図った。また退所後の生活に必要な支援を定型化した。

【母親の年間相談件数】



(2) 学童への支援

- 宿題の指導を中心に、対象となる子どもの特性に合わせた学習環境を設定し、施設で準備した教材を活用しながら補助的な学習支援を行った。
- 調理実習、銭湯体験、デイキャンプやサマーキャンプ等、様々な経験を通して、自分で考え行動することを促した。
- 調理実習においては、子どもが栄養バランスに配慮した献立を主体的に決め、食事のマナーを守りながら、楽しく食卓を囲む機会を提供した。施設内キャンプでは災害後の生活を想定した調理を行った。
- 社会性を身に付けることを目的に、生活場面や遊びの中で、日常的に自分の感情を言語化できる場面を設定した。
- 親子の状況に応じて個別面談や親子面談を実施し、子どもの様子の報告や親子それぞれのアドボケートを意識した関係調整を行った。

【学童日常対応件数】

対応内容内訳	学校	生活	問題行動	親子関係	健康	関係機関	合計
件数 (件)	236	202	2	39	48	17	544
割合 (%)	43.4	37.1	0.4	7.2	8.8	3.1	—

【学童活動件数】

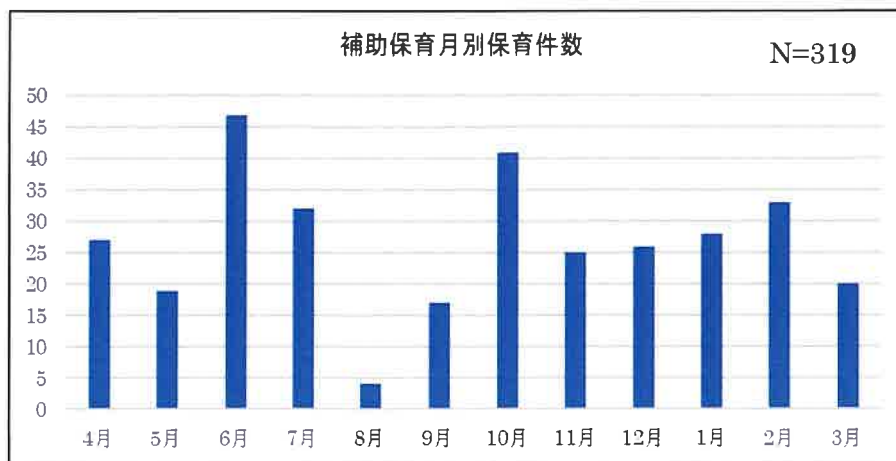
活動内容内訳	学習	遊び	調理実習	銭湯	外部訪問	サムエル会	みんなの会議	誕生会	ボランティア	散髪	合計
件数 (件)	660	659	98	49	43	35	23	12	11	7	1597
割合 (%)	41.3	41.3	6.1	3.1	2.7	2.2	1.4	0.8	0.7	0.4	—

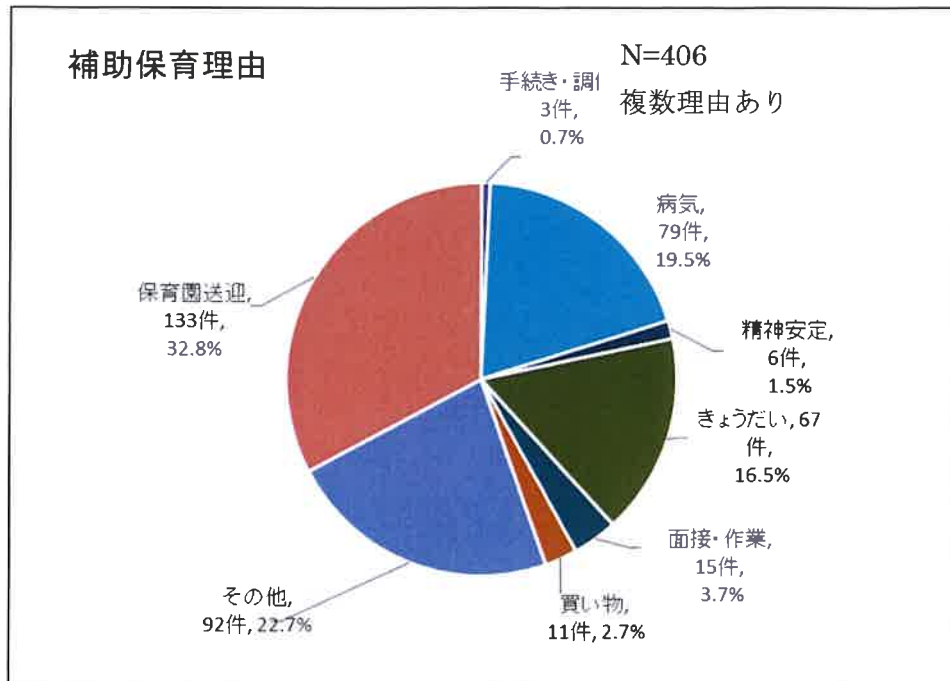
【学童活動】

	学童施設内活動	学童施設外活動
4月	夕ご飯作り(12日/26日) おやつ作り(17日)	銭湯(5日/19日)
5月	施設内キャンプ(12-13日) 夕ご飯作り(31日) おやつ作り(15日)	銭湯(17日/24日)
6月	夕ご飯作り(28日) おやつ作り(19日)	銭湯(8日/29日)
7月	施設内キャンプ(7-8日) 夕ご飯作り(30日) おやつ作り(23日)	ドッジボール大会練習試合(31日) 銭湯(13日/20日/26日)
8月	お昼ご飯作り(19日) 夕ご飯作り(27日) 学習ボランティア(24日/25日/31日)	サマーキャンプ(4日-9日) ドッジボール大会(17日) 宿題終わらせた会(31日) 銭湯(3日/21日)
9月	おやつ作り(18日) 夕ご飯作り(20日) 学習ボランティア(14日/22日)	銭湯(4日/14日/28日)
10月	ハロウィン(31日) おやつ作り(16日) 夕ご飯作り(11日) 学習ボランティア(5日/12日/26日)	銭湯(5日/9日/19日/31日)
11月	夕ご飯作り(6日/29日) 学習ボランティア(9日/24日)	銭湯(2日/15日/22日/30日)
12月	夕ご飯作り(28日) 大掃除(28日) 学習ボランティア(7日/15日)	銭湯(6日/20日/28日)
1月	お昼ご飯作り(4日) 夕ご飯作り(7日/31日) 学習ボランティア(19日/25日)	銭湯(10日/25日)
2月	節分(3日) バレンタインデーチョコ作り(14日) 恵方巻作り(1日) 夕ご飯作り(14日/21日)	銭湯(12日)
3月		

(3) 乳幼児への支援

- 補助保育の年間実施件数は319件であった。
- 子育てについての母親との情報共有機会の設定として、保育面接や保育室で母親と一緒に遊びながら子育ての助言をした。
- 保育園申込み時には書類作成に直接関わり個別に対応した。
- 子どもの病院受診、健診同行をした。
- 保育園の行事に参加し、保育園との情報共有も定期的に行った。





【保育年間行事】

- 6月1日：幼児遠足
- 7月27日：幼児親子水遊び
- 11月16日：幼児遠足・リフレッシュ保育
- 12月1日：リフレッシュ保育
- 3月7日：リフレッシュ保育
- 3月13日：リフレッシュ保育

9. 心理ケア

【年間心理ケア実績】

	心理療法	生活場面面接	支援上の助言	支援会議
4月	11	18	7	9
5月	8	7	10	5
6月	7	8	8	9
7月	5	5	8	9
8月	4	6	9	2
9月	6	7	10	9
10月	4	3	2	1
11月	7	5	16	18
12月	7	7	15	3
1月	3	9	8	6
2月	3	6	6	9
3月	0	13	5	3
合計	65	94	104	83

10. アフターケア

- 職員による退所先への訪問：10件
- 電話による相談：48件
- 来所による相談：12件
- 同行（通院・手続き等）：7件
- 行事参加（学童キャンプ・ドッジボール大会・サマーパーティー）：10件
- 関係機関連携：3件
- 学校公開見学：4件
- プレイセラピー：1件

11. 緊急一時保護

保護概要			
	世帯数	DV	居所なし
単身世帯	10	7	3
母子世帯	1	1	0
合計	11	8	3
保護期間			
日数	1日～7日	8日～14日	15日～
世帯数	5	3	3

退所先	人
宿所提供施設	4
宿泊所	1
養護老人ホーム	1
救護施設	1
婦人保護施設	1
区役所	1
大使館	1
実家	1

12. 会議

運営会議：12回 リーダー会議：18回 C.C：11回 プレC.C：27回

13. 職責の明確化

母子生活支援施設におけるキャリアパス設定とそれに伴う職員の処遇改善を実施した。

14. 支援のネットワーク化

- 学生ボランティア（法政大学）、企業ボランティア（ギャップジャパン株式会社、UBS証券会社）、地域ボランティア（墨田BBS）を受け入れた。
- 企業CSRを積極的に受入れ、企業からの寄付物品を受け入れ、今後の受け入れ検討を進めた。（株式会社ドイツ銀行、株式会社カーブスジャパン、日東富士製粉株式会社、株式会社アクアアート、花王株式会社、株式会社叙々苑、日本IBM）
- 地域関係団体やNPO（ソシオエステ、Lights on Children）との連携を強化し、DVや虐待について知る機会を提供するとともに、寄付を受け入れた。

15. 職員福利厚生

① 福利厚生の充実

- 福利厚生委員会により福利厚生充実に向けて検討を行った。
- 有給休暇取得率の向上、職員健康診断オプション助成金を検討した。

② 有給休暇取得

平成 31 年度に有給休暇 5 日間付与義務化に伴う 5 日間の時季指定は 100%を達成し、昨年度よりも取得率が高くなっている。

全職員平均取得率 48.0% (32.5%)

管理職除く職員平均取得率 53.8% (38.2%)

* () 内は平成 30 年度数値

16. 施設建替えへの取り組み

- ① 進捗状況の理事会報告
- ② 月 1 回、設計事務所・建築業者との定例会議実施
- ③ 防災力強化を目途としたマンホールトイレ設置
- ④ 環境整備委員等による施設器具什器品の選定
- ⑤ 町会等近隣地域への説明及び情報提供

17. 平成 31 年度を振り返って

施設整備事業 3 か年度の 2 年度目、最も整備進捗率が大きい年度は 1 年間仮施設にて事業運営を行った。仮施設であっても町会や学校、保育園との連携を図り、地域に根差した施設となれるよう注力した。また、支援の力量を高めるために、様々な業務を定型化し、人材育成を計画的に実施した。

18. 今後の課題

施設整備を経て事業展開を大きく変化させることが求められていく。社会的養育ビジョン、社会福祉法改正、東京都ひとり親自立支援計画第 4 期等に規定された施設の機能的展開を図り、時代にあった事業展開を行っていくとともに、母子生活支援施設ベタニヤホームの特徴を社会にアピールできる支援を展開する。

平成31年度 菊川保育園 事業報告

1. 児童の入所状況

- 定員 120人 平均在籍園児数 115.1人 入所率 95.9%

(単位:人)

年齢	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
	定員													
0歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
1歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
2歳児	21	21	21	20	21	21	21	21	21	21	21	21	21	251
3歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	23	23	23	23	284
4歳児	24	24	23	23	23	22	22	22	22	22	22	22	22	269
5歳児	24	22	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	253
合計	120	118	116	115	116	115	115	115	115	114	114	114	114	1381
障がい児等		11	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	121
延長保育	20	10	9	10	9	9	8	8	8	8	8	9	8	104
1時間単位保育		13	10	14	12	17	16	17	18	13	19	18	11	178
短時間スポット延長		4	2	1	3	0	2	1	0	1	3	1	0	18

- 各区市園児述べ人数 : 墨田区 1,352人、江東区 28人、千葉市 1人

2. 年間行事

(1) 定例行事

- 誕生日会、0歳児健診、身体測定、避難・消火訓練、応急救護訓練
- おはなし会 … ストーリーテラーによるパネルシアター・手遊び・素話(年11回)
- 特養老人ホームあそか園・デイサービス訪問 (年5回:感染症流行により1回休)
有料老人ホームケアラヴィーレ訪問 (年3回:感染症流行により2回休)
- クッキング保育…野菜ちぎり、梅ジュース、クッキー、米研ぎ

(2) 季節の行事

	園行事	法人・ルーテル教会関係
4月	入園進級礼拝 イースター礼拝 保護者会 交流懇談会	辞令交付式 イースター礼拝
5月	卒園児の会	内部監査
6月	花の日礼拝 春の健診・歯科検診	
7月	水遊び お泊り保育 園舎消毒	
8月	水遊び	ルーテル法人会連合
9月	一斉引渡し訓練 お招き会(園児・地域)	法人創立記念会研修会
10月	運動会・秋の健診・歯科検診	
11月	収穫感謝祭・祝福式	ルーテル幼保クリスマス礼拝

12月	クリスマス会(園児・卒園児・地域)	役職員合同クリスマス礼拝 キ保連関東部会クリスマス
1月	新年礼拝	
2月	節分	
3月	ひなまつり 卒園式 お別れ遠足 リクエストメニュー給食 ※保護者会	※東京大空襲罹災者礼拝 研修会

※保護者会、東京大空襲罹災者礼拝・研修会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

3. 平成31年度重点目標の取り組み

(1) 保育

「子どもたちの育ち、日々の保育を大切にしたい繋がりある保育」を目標とし以下の項目について取り組みを行った

①神様の愛と恵みに感謝する

- 毎月2回(北尾牧師、小勝牧師による)の合同礼拝を行う。5歳児が行うアコライト奉仕も定着してきた。隣の聖パウロ教会に出向く機会を持ち、保育園と異なる空間で心を落ち着かせる体験ができた。
- 「朝の集まり」や日常生活の中で、「自分が周りのいろいろな人から見守られている」事や「生活の中にある『当り前の事』に感謝する」「相手の気持ちに気づく」、「優しい気持ちについて」などを感じられるようにした。

②子ども達が主体的に生活する保育

- 特に乳児保育については育児担当制を継続して行うことで、一人ひとりの発達に合った援助を行ったことができ、情緒の安定にもつながった。
- 子どもたちの関心や発信に目を向け、遊びを広げ行事の中に取り入れた。

③異年齢保育の取り組み

- 幼児クラスで取り組んでいる3人組の取り組みについては、決まったメンバーでの関わりを通して、子ども同士の関係性が芽生え、日頃の生活の中でも異年齢児を気にかける姿が見られた。積極的に取り組む中で自分が必要とされる喜びを体験している。
- 兄弟ケースがいるクラスではクラス間で交流する機会を持つこともできた。

④関係機関との連携を図った支援要

- 要保護児童として見守りが必要なケースや療育施設(みつばち)等を利用している子どもや気になる子どもなど一人ひとりの子どもの特性に配慮をしながら保育を行った。関係機関との連携を図ると同時に職員会議での報告や園内研修で支援方法を学ぶなど職員全員が共通理解した上での支援となるよう努めた。

【要保護児童(3人)・障がい児等16人(区認定数:11人 気になる子:5人)】

⑤世代間交流の継続

- 近隣にある高齢者施設を訪問し触れ合う中で人と関わる事の楽しさや笑顔で迎えて頂き、自分が誰かの役に立つ存在であることへの喜びを感じるようになった。

⑥専門講師による体操活動

- 基礎体力と成功体験をつけるために体操講師を招き継続して実施した。
- 昨年度は猛暑で水遊びが十分にできなかったが、日除けネットの設置と共に熱中

症指数計で「暑さ指数」(WBGT)を確認しながら安全に活動ができよう努めた。

⑦食でつながる心と体の健康づくりを育む

- 3、4、5歳児はプランターを使用して野菜の栽培を行った。身近に植物の生長に関心に向け観察することを通して収穫することへの喜びと繋がっていた。

⑧幼保小中一貫教育

- 「英語に親しむ」ことを共通のねらいとし近隣小学校と交流を持った。
- 一貫教育以外の場においても近隣幼稚園に行事の参加や進学する小学校で給食試食会に出向くことで就学意識を高め小学校への興味や関心をもつことができた。

(2) 地域

地域との連携を図ると共に地域の家庭子育て支援充実のため以下のことを行った。

また、地域の方や定期的に活動するボランティアが増えている。同じ人がクラスに入ること子どもが安心感を持ち、保育の安定、見守りにつながっている。

①地域在宅子育て支援

- 「ぴよぴよひろば」(親子で保育体験)を開くことで保育園に親しみを感じたり、育児相談などを行う事で育児不安への解消にもつながった。残念ながら秋以降インフルエンザや新型コロナウイルス感染症により実施することができなかった。

【ベビーマッサージ、保育体験、クリスマス会実施他、育児相談(9回16組利用)】

- エッグママ(妊婦対象)においても出産後の子育てについて質問もあり子育てへの不安の解消に役立っている。 【9回 新規登録9人、9人利用)】

②つながりのある居場所作り

- 子どもたちは地域の方との世代間交流を通し、人との関わりや感謝をすることの大切さを学ぶだけでなく、共に過ごすことで子ども達に公共のルールや道徳を教えてください関係となっている。 【活動人数86人(延べ327人)活動回数120回】

- 「ふれあい給食」では登録者に年間計画を配布し、継続した関わりを持った。HPを見て町会以外からも定期的な参加があった。 【実施回数69回 食数171食】

③卒園児に対しては「卒園児の会」やボランティアとして受け入れるなど卒園後の「いつも見守っている」ことを伝えるようにしている。 【卒園児童との交流(年3回)】

④菊川小学校・幼稚園学校運営連絡協議会委員として引き続き連携をとっている。

4. 防災・防犯と安全管理

(1) 防災、防犯対策の徹底

- 水遊び前の応急救護訓練を行うほか応急処置ブックを改訂し配布している。
- 一斉引き取り訓練後に防災士職員による保護者への防災講習などを実施した。また、伝言ダイヤルを保護者・職員ともに実際に体験する機会を設けた。
- 町会と合同避難訓練を実施し、協働で子どもの安全・地域の安全にお互い意識が深まる機会となった。

5. 保健衛生

(1) 感染症

- ① 6月に0歳児クラスで原因不明の下痢が大流行した。アデノウイルスによる下痢の子

もいたが、多くは特定できないものであった。7月には1歳児クラスを中心に未満児クラスで手足口病が大流行した。玩具や部屋の消毒の方法を変えウイルスに対応した。

- ② 感染症の拡大防止のため手指衛生の励行に取り組んでいるが、徹底まで達成できていない。今後の課題として継続的に取り組んでいきたい。
- ③ 年度末より新型コロナウイルス感染症の流行があり、衛生材料の入手に困難を極めた。

感染症の動向にさらに気を配り、物品の管理を行っていく必要があると思われる。

(2) 怪我

「ぶつける」「口腔のけが」「ひっかき」について未満児は時期的に変化ないが、以上児では激減している。保育環境の整備が出来ていると思われる。

(3) 通院・受診状況

- ① 歯科…3件（いずれもX-P 施行問題なく終了）
- ② 外科…2件（柱に右足甲部分をぶつけ受診 左肘内症受診）

6. 環境整備

- (1) ウッドデッキの改修工事…水の使用が出来るようになり活動がひろがった。
- (2) 門扉取り換え交換工事…木製玄関門扉の劣化のため鉄扉に交換をした。
- (3) にじ棟屋上日よけネット設置…安心して水遊び・プール活動ができた。

7. 人材育成

(1) 事業計画の作成・行事の振り返り

年間事業計画を職員全員で意見を出し合い作成をしている。また、季節行事についても、その都度「目標」「ねらい」について見直し、行事の持ち方や内容を含め「子どもが主体」となるよう「お泊り保育」「生活発表会」「クリスマス会」の持ち方などの変更を行った。

(2) 園内研修

職員の知識や外部研修で学んだことを報告しあい学びを深めお互いの研鑽に努めた。

【研修内容：「応急救護について」「おもちゃについて」「発達支援について」】

(3) 聖書研究会

月に1回北尾牧師によりこひつじ保育園と同じテーマで実施し、法人理念であるキリスト教精神に基づく隣人愛についての学びを深めている。

(4) 育成支援

実習生・見学を受け入れることで保育士の養成を行うと共に、職員も初心に返り社会福祉法人としての自覚を憶える機会となった。（自身の指導や振る舞いに気付く等）。

① 保育士養成校

青山学院女子短期大学、大妻女子短期大学、東京YMCA社会体育保育専門学校
竹早教育保育士養成所、帝京科学大学（実習生辞退） 受入校：計5校

② 中高生職場体験 受入：計3校8人

③ 小学生の親子ボランティア 活動人数14人 延べ人数27人 活動回数60回

8. 保護者との連携

(1) 園の保育方針、保育の取り組みを保護者に向けて発信

- 園理解となるようホームページや活動時の写真を玄関に掲示情報を発信し、子どもの育ちを共有し共に子育てをしていく。
- 保育参加を積極的に参加して頂き、園での子どもの様子を実際に見てもらうことで保護者の保育園理解、安心感につながっている。

9. 平成31年度を振り返って

(1) 年間を通して転居で退園する子どもが多かった。(7人：乳児3人、幼児4人)

幼児の年度途中の入園は難しく定員減員が続いた1年であった。

(2) 平成31年度は母子寮棟の建替えや法人事務局がにじ棟1F事務室を使用することとなったが1年を通して保護者からの苦情や大きな事故もなかった。

(3) 新型コロナウイルスの流行により3月予定していた「おわかれ遠足」や「卒園式」など子どもたちだけでなく保護者や職員にとっても締めくくりとなる行事を通常通り行うことができなかったが、一方で行事内容の見直しや変更を考えるよいチャンスであったと捉えている。

(4) 江東橋五丁目町会の協力のもと、「ふれあい給食」だけでなく、行事の際に一緒に出掛けたり、町会行事の一つとして「合同避難訓練」を開催するなど積極的に子どもたちのことを見守って下さっている。また、「江5のつどいのひろば」の共催や「新年初笑い」で保育室の提供などこちらからも協力することで、「お互いに愛される一人ひとりである」ことを感じられることができた。江東橋五丁目町会の皆さまに感謝するところである。

尚、「高齢となり足腰が弱くなってきたため「雑巾ぬい」や「アイロンかけ」などでお手伝いできることはないか」と申し出る方もいる現状も踏まえ、今後の地域ボランティアの在り方を考える必要がある。

10. 今後の課題

(1) これまで年度途中の退職職員が多く厳しい保育園運営が続いていたが、平成30年度に参加した人材育成研修への参加や「週休2日制」を導入、休憩を業務化・可視化し休憩を取りやすい環境を構築するなどの効果か平成31年度は年度途中の職員退職者はいなかった。

今後は安定した人員構成を維持していかなければならないと考える。そのため現在、法人主導で検討されている「給与制度等検討委員会」と並行して「コーチングセンス」を取り入れた計画的な人材育成を実施しながら現場職員の働きやすさに考慮した体制作りを行いたいと考える。

(2) 平成31年度の人件費支出割合は収入に対して8割を超えている現状である。

安定して職員がいるという事は子どもたちにとっても「安心した保育」を提供することとなるが、経営面には不安な状況である。職員全員で「資源には限りがある」ということを職員の共有した想いとし、SDGsなど目に見える形で取り組んでいきたい。

(3) 新型コロナウイルスの感染拡大防止対策、保育園や家庭でもできることを注意喚起も含めて行っていく。また、感染状況によって対応が日々変化することを踏まえて関係機関との連携情報収集を行うと同時に行事等の見直しを行う必要を感じる。

平成31年度 富士見保育園事業報告

1 施設の利用状況

- 定員 100人 平均在籍園児数 102人 入所率 102%

(単位：人)

年齢	月 定員													合計	
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
0歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
1歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
2歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216	
3歳児	18	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240	
4歳児	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240	
5歳児	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240	
合計	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	102	1224	
延長保育		11	14	17	17	17	17	17	17	17	20	20	21	205	
一時預かり保育		31	29	33	35	28	35	35	37	31	32	39	6	371	

- 区別園児延べ人数 江戸川区 1212人 葛飾区 12人
- 障がい児 2人
- 一時預かり事業総登録数 576人 年間利用者延べ人数 371人

2 年間行事

- (1) 定例行事 合同礼拝、体育あそび、リトミック、わらべうた、消火避難訓練、お楽しみ給食
- (2) 地域交流 育成室交流 (年6回)、光照苑交流 (年6回)、保育体験 (週2回)
ハンドベルサークル お茶会とおはなし会
- (3) 季節の行事

	園行事	父母の会(保護連)主催	法人・ルーテル教会関係
4月	入園式 進級式 イースター礼拝	父母の会新旧引き継ぎ会 父母の会総会	辞令交付式
5月	ファミリー組親子遠足 家族の日 クラス別懇談会 進級写真		内部監査
6月	花の日礼拝 父母の会主催親子あそび会 風の子観劇会 クラス別懇談会 卒園児の親子会 コーヒータイム	保護連研修会 父母の会主催親子あそび会	
7月	プール開き お泊り保育(すみれ組)		
8月	プール遊び 水遊び		
9月	引渡し訓練・プラネタリウム お招き会《敬老の集い》		法人創立記念会研修会

	コーヒータイム		
10月	運動会(幼児クラス) ファミリークラス遠足(芋掘り)		
11月	祝福式 収穫感謝礼拝 収穫感謝クッキング コーヒータイム	保護連研修会	ルーテル幼保クリスマス
12月	第1第2第3アドベント礼拝 クリスマス礼拝(園児, 卒園児) クリスマス祝会		キ保連関東部会クリスマス 役職員合同クリスマス
1月	風の子観劇会 もちつき(すみれ組)		
2月	生活発表会(幼児クラス) 新入園児入園説明会 ※卒園児を祝う会中止 ※クラス別懇談会中止 ※コーヒータイム中止	※卒園児を祝う会中止	
3月	※ひなまつりお茶会中止 お別れ遠足(5歳児) 卒園式	※父母の会総会中止	※追悼記念会礼拝・研修会 中止

※新型コロナウイルス感染拡大防止の為に中止

3 平成31年度重点目標の取り組み

(1) 保育内容の充実・向上

- ① 乳児保育は、「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」の3つの視点からこれまでの保育内容を整理し、これまでも行ってきた『担当制保育』を充実させ、一人ひとりの発達にあった丁寧できめ細やかな家庭的な関わりをすることができた。
- ② 幼児保育は『異年齢保育』を通して子どもたちの「知識や技能」「思考力や判断力・表現力」「人間性や学びに向かう力」などを育み、互いの違いを認め合いながら共に育つ保育をすすめていくことができた。また、クラス事にテーマ遊びをもち、子どもを中心に計画、準備をすすめ1つの遊びをクラス全体で共有し楽しむことができた。
- ③ キリスト教保育で大切にしている目に見えない心の育ちを子どもとの生活の中で、保育士も感じ認め共に培えるよう職員間で話し合い、伝え合う時間をもつようにした。
- ④ 子どもたちは人間形成の基盤となる時期を保育園で生活しているということを十分に理解し、子ども一人ひとりの人格を尊重することを意識し関わることができた。これまでやってきたことも再確認し改善、向上に繋げることができた。

(2) 職員の資質向上

- ① 毎年、吉本和子先生の指導を受け保育内容を振り返るなかで、一人ひとりが意見を出し合い、『担当制保育・異年齢保育』を見直すことができた。
職員の入れ替わりがあっても、継承できるものとした。また、他園から保育見学の依頼があり、公開保育として年4回行なった。他園に保育を見てもらうことで自分たちの保育の振り返りにも繋がる。

- ② 継続して「保育環境」「わらべうた」「リトミック」「体育あそび」の専門講師を招いて、ポイントや具体的な関わり方を学んだり、ちいさな疑問などの相談をしたり、指導を受けたりして、日々の保育に活かすことができた。子どもと共に研修を受けることで、指導の中でコツを教えてもらったり、導入方法を学んだり、子どもと遊びながら大人の表現方法も学んだりすることができた。それを通して、子どもとのかかわりを深めることができた。
- ③ 平成 29 年度と今年度から障がいをもつお子様をお預かりしているが、研修に参加し基本的な療育方法を学ぶとともに食事の進め方、関わり方など家庭と随時連携・連絡をとりながら細心の気配りをしながら保育を行ってきた。
- ④ 聖書研究会では「人との繋がり大切さ」やキリストが示した「隣人愛」の精神を松田牧師の協力のもと法人職員の一人としてキリスト教精神を、働きを通して利用者に表示していけるよう学びの時をもった。

(園外研修)

平成 31 年度は以下の内容の外部研修に参加した。

● 子どもの文化教室（年齢・テーマ別）	44 回
● キリスト教保育連盟東地区研修	3 回
● 江戸川区認可私立保育園乳幼児食研究会	4 回
● 給食施設従事者講習会 他（江戸川保健所主催）	2 回
● 職員研修・リーダー層研修（江戸川区認可私立保育園園長会主催）	5 回
● 認可保育園講習会・サービス推進費事務手続き研修（東京都主催）	3 回
など	

4 防災・防犯と安全管理

- (1) 地震、火災、水害等における災害対応マニュアルを職員間で把握し、それぞれの動き役割を確認し緊急時でも対応できるようにした。
- (2) 行事での門扉の開閉は、不審者の侵入や子どもの抜けだしのないよう安全係を置き、安全管理を行っている。
- (3) 区からの安全管理連絡の情報を得たときは、すぐ掲示し注意を促した。
- (4) 子どもたちを安全にかつ迅速に誘導できるよう毎月消火避難訓練をした。
- (5) 3 日分の食料等とともに、防災用品として発電機も 2 階倉庫に備えている。
- (6) 保護者への対応として、災害時の一斉メール配信を年 1 回引取り訓練で行った。
- (7) 不審者対策として警察の方に対処の仕方を指導していただき、職員で実践形式のもと研修を行った。

5 保健衛生

- (1) 感染症については、発症した際には早期に掲示し、家庭に知らせ、感染予防の対策をした。
- また、感染症の予防対策として、塩素系の消毒液と手袋、マスク等を 1 セットにして各クラスに備え、処置を行う事で、感染を最小限に抑える事ができた。

- (2) 今年度もぜん息・食物アレルギー緊急時対応研修にも参加し、保育士・栄養士・看護師は共に学び、それぞれの役割と管理や働きなどの再確認をした。(エピペンの使用法など)
- (3) 嘱託医による健康診断と0歳児健診を行うことにより、園児の健康状態を把握することができた。嘱託医のご好意で職員の健康管理・予防接種も行うことができた。
- (4) 年度末、新型コロナウイルスが流行した。発症、感染拡大しない為にも手洗い・うがい・消毒・検温等を徹底し職員、保護者ともに意識を高くもち対応している。
定期的に以下の内容を実施している。

【定例実施】

- 身体測定 ・ 0歳児健診 ・ 発達相談 ・ 布団乾燥消毒 ・ 布団の洗濯
- 5月・・・ぎょう虫検査 健康診断
- 6月・・・歯科健診
- 7月・・・園舎消毒
- 10月・・・健康診断

6 環境整備

- (1) 園舎、園庭、遊具、木々や草花など子どもたちに関わるあらゆるものが保育の環境であることを職員一人ひとりに伝え、大切にする意識をもつようにした。
- (2) 園まわり、園庭掃除の際、清掃だけでなく危険物が落ちていないか遊具の安全性など確認するようにした。
- (3) 園内、保育室等も安全チェック表をもとに棚や遊具、教材など交代で確認している。

7 人材育成

保育士養成学校の実習・中高生の職場体験・ボランティアの受け入れ等では、「子どもたちとのかかわりの楽しさや方法を実感し良い学びとなった。」という感想を得た。また、育成の場を通し、職員一人ひとりの自己研鑽の場ともなっている。

平成31年度は以下の学校の受け入れを行った。

(1) 保育実習 計11校19人

- 青山女子短期大学 2人 愛国学園保育専門学校 3人
- 東京子ども専門学校 3人 大妻女子大学 3人 道灌山保育専門学校 1人
- 東京医療秘書福祉専門学校 1人 千葉経済大学短期大学 2人
- 和洋女子大学 1人 東京未来大学 1人 江戸川大学 1人
- 東京YMCA社会体育・保育専門学校 1人

(2) 中学生職場体験(チャレンジドリーム) 計3校(7人)

- 小岩第1中学校 2人 小岩第3中学校 3人
- 小岩第4中学校 2人

(3) 学生ボランティア 計4人

- 高校生 1人 専門学生 3人

8 保護者との連携

- (1) 遠足、コーヒータイム、親子あそび(コンサート)などを通して、職員と保護者、家族ぐる

みの繋がりが深まったという、うれしい声を聞く事ができた。

- (2) 父母の会総会・懇談会等では、年間行事予定、職員の状況などを理解していただくため、園の保育目標や保育方針、保育内容、来年度の方針を伝え、理解を得るようにした。

9 平成31年度を振り返って

(1) 役割の明確化・継承

統括園長のもと3園の情報共有、統一を円滑に進めることができた。今後もベタニヤとしての職員の働き方、心得を指導していただき継承していく。

また、職務分掌にて主任、副主任、リーダー等の役割を提示している。それぞれの働きが明確化し高い意識をもって業務にあたることができた。職員は、お互いをサポートし合い役割を引継いでいけるようにした。

(2) 保育・行事の見直し

富士見保育園の保育、行事を職員全体で話し合い振り返りながら見直しをした。これまでの「一人ひとりを大切に保育」を職員が考え意見をだしあい、今後も職員同士がお互いを意識し伝え合うことで共に研鑽できる環境作りをしていく。

今後も利用者の方に園の方針を十分に理解していただくよう努めるとともにお互いに子どもの成長を喜び合える関係を築いていく。皆が安心できる保育園でありたい。

10 今後の課題

- (1) 職員が新しい職員を迎えるにあたって常に初心に戻り、自己を振り返り、周りの人にどうみられるのかを意識し働いていく。また子ども、保護者、職員同士の関わり方、声掛け、身なりなど職員がお互いを気にかけて、お互いを高めていく。

- (2) 卒園児（小・中・高校）およびその友だちを対象に、月曜日から金曜日までの16時から17時までの1時間ではあるが、育児体験の受け入れとしての保育園の開放や、緊急を要する子どもの受け入れ、保護者との待ち合わせ場所とするなど積極的な利用があり利用した家庭からも喜びの声がある。

今後は公益事業としても発展させ地域子育て支援として継続していく事とする。

- (3) 前年度に引き続き、保育士の確保と就労の定着ができるよう、居心地の良い職場とする。日中の時間を効率よく使うことで、超過勤務を少なくする。

- (4) 法人主導で保育園独自のホームページを作成し運用している。

保育園利用者や今後利用される方へのPRとして富士見保育園を知ってもらうためにも随時更新していく。

- (5) 前年度末から新型コロナウイルスが感染拡大している。園から感染者をださないためにも職員、利用者で協力体制をしき、危機感を持ち努めていく。また、情報を正しく取り入れ行政の要請を受け判断し、保育園の体制を決定する。

平成 31 年度 こひつじ保育園事業報告

1. 児童の入所状況

- 定員 100 人 平均在籍児童数 98.5 人 入所率 98.5%

(単位：人)

年齢	月 定員	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
0 歳児	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
1 歳児	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156
2 歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
3 歳児	21	20	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	251
4 歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
5 歳児	21	19	19	19	19	19	20	20	20	20	20	20	20	235
合計	100	97	98	98	98	98	99	99	99	99	99	99	99	1,182
障がい児		9	9	9	9	9	9	9	9	9	11	11	11	114
延長保育		3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	32
1 時間単位保育		21	26	25	25	19	25	24	28	29	27	24	16	289
一時預かり保育		16	18	25	22	23	26	31	25	33	22	18	7	266

- 区別園児延べ人数 墨田区 1,182 人

2. 年間行事

- (1) 定例行事 合同礼拝・体操教室・身体測定・消火避難訓練・誕生祝食・0 歳児健診
- (2) 地域交流 体験保育・クリスマス会・給食体験・クッキング・ベビーマッサージ
- (3) 季節の行事

	園 行 事	法人・ルーテル教会関係
4 月	イースター礼拝・進級礼拝	辞令交付式・イースター礼拝
5 月	ファミリー交流会・春の健診	内部監査
6 月	花の日礼拝・歯科検診・乳児交流会（クラス懇談会）・卒園児の会	
7 月	お泊り保育・園舎消毒・プール遊び・七夕	
8 月	プール遊び・水遊び	
9 月	一斉引き取り訓練・お招き会	法人創立記念会研修会
10 月	遠足・秋の健診・園舎消毒・ファミリースポーツデー	
11 月	収穫感謝祭・祝福式・歯科検診	ルーテル幼保クリスマス礼拝
12 月	クリスマス礼拝（園児・卒園児・地域）	役職員合同クリスマス礼拝 キ保連関係

1月	新年礼拝	
2月	懇談会・豆まき・卒園記念撮影・生活発表会	
3月	5歳児お別れ遠足・ありがとうの会・お別れ会食 卒園式・リクエストメニュー給食・ひなまつり	東京大空襲罹災者記念会礼拝・研修会

3. 平成31年度の重点目標の取り組み

(1) 新保育所保育指針に基づく保育

- ① 子どもが安全に安心して過ごせ、一人ひとりの発達や興味にあった遊びが豊かに展開できるように保育環境を整え、自主的に遊ぶ姿を見守りながら保育を進めた。
- ② 乳児保育は担当制による丁寧な保育を通して生活習慣の見通しが持て、個々のリズムに合わせて対応することができた。
- ③ 発達支援児・気になる子どもには個々の成長に合わせた保育を心がけ、個別対応や小集団を作ったりしながら保育をした。
- ④ 子ども達の健康的な成長・発達・表現力の育成に向けて、3.4.5歳児を対象に外部講師による体育指導を取り入れることによって大きな成長（自信・達成感・運動能力・協調性）へと繋がった。

体力測定を行う事によって技能の上達や体力の向上が個々に把握でき、見通しを持って行うことができた。

- ⑤ 食育では安心・安全な給食を心がけ、毎月1回献立会議を開き、食育活動も含めて計画を立てた。（きのこ栽培、野菜等の皮むき、味噌作り・米とぎ当番やクッキング・包丁の使い方）

(2) 職員の資質向上と育成

- ① 聖書研究会では月に1回、北尾牧師により年間テーマ「子どもの賛美歌ものがたり」を参考資料として、担当者の発題・グループディスカッションし学び合った。
- ② 園内研修ではテーマ「遊びの広げ方」「園の備蓄品・非常食の調理手順」について話し合った。また、保育が一方的になっていないか、日々振り返り、子どもが主体的に活動できる環境を整えていく大切さを学びあった。

(3) 家庭・地域・機関との連携

- ① 発達支援児には支援施設（みつばち園）や心理相談員と連携し対応の方法を学んだ。保育要録を作成し小学校や学童クラブへ申し送りをした。
- ② 在宅子育て支援として保育所体験・給食体験・クッキング・ベビーマッサージは希望者が多く、保育園を知ってもらえる良い機会にも繋がっているため積極的に行った。
- ③ 家庭的保育者会議の中で（月1回）喫食した様子、献立内容、衛生面について確認しあうことで安全に食事の提供をすることができた。

4. 防災・防犯と安全管理

- (1) 災害対応マニュアル（地震・火災・水害）・BCPの再度見直しを行った。
- (2) 本所警察署による不審者対応の訓練として、さすまた使用法やインターフォン対応の方法などを行い、アドバイスをもらい再度共通理解した。
- (3) 区からの保育園安心安全（事件・事故）情報は掲示し注意を促した。

- (4) 消防署による応急救護や心肺蘇生法・AEDの訓練の実施。保育中での起こりやすい怪我・事故対応についても学んだ。
- (5) 緊急地震警報機を各フロアーに設置したことにより迅速な避難対策をとることができた。
- (6) 一斉引き取り訓練を通して伝言ダイヤルを保護者・職員も体験し伝言確認する訓練をした。
- (7) 日常的に利用する散歩経路や公園等について、異常や危険性がないか（工事箇所・交通量）を点検し安全性に配慮し、情報を職員で共有した。→状況に応じて子どもにもわかりやすく伝えている。
- (8) 備蓄品の内容や数量・保管場所の見直しを行った。

5. 保健衛生

- (1) 乳幼児突然死症候群（SIDS）対策として、0歳児5分、1・2歳児10分、幼児30分おきの睡眠中のチェック実施。
- (2) 加湿器や空気清浄機を使用し、伝染病のウィルスの飛散防止に努めた。また、感染予防のため、子ども達が手に触れる門扉・階段の手すり・壁面・遊具棚等の拭き掃除、遊具の消毒強化・励行に努めた。
- (3) 毎朝、視診表・引継ぎノートを使用し、登園前の家庭の様子を確実に担任に引き継いだ。
- (4) 嘱託医・嘱託歯科医による健診を通して園児全体の健康状態を把握することができた。全職員がインフルエンザ予防接種を受けた。
- (5) 新型コロナウイルス感染予防のため玄関フロアー及び各フロアーに消毒噴霧器を設置した。職員は健康状態に留意し、マスク着用で保育を行った。子どもたちには日々保育の中で手洗いやうがい大切さと確実な方法を伝えた。
- (6) 感染症が発症した時は状況を早期に掲示し、家庭での感染予防の協力依頼をした。
- (7) 熱性けいれん児のダイアアップ2人・アナフィラキシー症状ありエピペン常時保管
- (8) 流行性疾患*インフルエンザ8人・溶連菌感染症7人・手足口病20人・プール熱1人・伝染性紅斑1人・ノロウイルス1人・アデノウイルス1人・RS2人・ヘルパンギーナ1人

【受診状況】

眼科受診3件・耳鼻科1件・歯科受診1件 いずれも軽症

【定例実施】

身体測定・0歳児健診・新入園児健康診断・布団乾燥消毒・職員細菌検査

5月・10月・・・ 春健康診断

6月・11月・・・ 歯科健診

7月・11月・・・ 園舎消毒

6. 環境整備

- 2階ベランダ水漏れ工事实施した。
- 戸外活動での連絡用に各クラス携帯電話を購入した。
- 園内エアコン・厨房の換気扇は業者に点検・清掃依頼した。エアコンクリーニングは定期的に行っていく。

- 門扉のストッパー修善

7. 人材育成

- (1) 新人一年目の職員に対してはクラスリーダーと共に主任も課題と向き合うよう働きかけた。
- (2) 園外研修で学んだことは職員会議で報告し学び合い、保育に活かした。
 - 子どもの文化教室
 - キリスト教保育連盟東地区研修
 - 墨田区私立保育園協会主催研修
 - 東社協主催研修
 - 給食従事者講習会
 - 入江感動経営研究所
- (3) 主任・副主任・リーダーの役割分担を明確にしたことで、意識を持って業務に取り組んだ。
- (4) 保育実習・小中高生の職場体験・ボランティアの受け入れ
これらの受け入れは、次世代育成に欠かせないだけでなく、指導することによって自らの保育を客観視、自己を向上させる機会となった。今後も、保育・調理実習生が就職に繋がるような職場環境にしていく。

①保育士・栄養士養成校の実習

大妻女子短期大学 11 人・東京保育専門学校 2 人・東京 YMC A 保育専門学校名 1 人・大妻女子大学児童学科 2 人 受入校：計 4 校 16 人

②小中高生の職場体験及びボランティアを受け入れ

受入：職場体験 計 3 校 6 人 ボランティア 62 人 計 68 人

8. 保護者との連携

- 連絡帳、送迎時の対話、園内の掲示などで、保護者の子育ての自信や意欲を高めることに繋がるように保育の内容や子どもの成長の姿を詳しく伝えた。
- 懇談会、個人面談、保育参加、保護者が参加する行事で、保育の意図、日常の保育や子どもの様子を伝えたり、保護者の気持ち、子育ての悩みや不安を受け止め理解しながら、子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共感し合った。
- 園での子どもの様子を実際に見学できる保育参加の希望も増え信頼関係も深まった。
- 保護者が参加する行事の様子を写真で掲示することで、より分かりやすく子ども達の様子を伝えられた。
- 個人面談を早めに行ったことにより、保護者の思いや不安・悩みを早期に聞くことができ、成長の先にある形をビデオや写真で詳しく伝えることで、園での様子を知ることができ安心感へと繋がった。

9. 平成 31 年度を振り返って

- (1) 3 歳児 1 人・5 歳児 2 人の欠員により 97 人でスタートした。9 月から 5 歳児 1 人の欠員が埋まらなかった。2 歳児 1 人が途中退園したが翌月入所できた。幼児の入所は厳しくな

っている。

- (2) 職場環境の構築を目指し週休2日制を実施した。
- (3) 育児休業後職員が2人復帰し、変則勤務ローテーションに入ることは厳しい状況であるが他の職員の理解・協力の下に貴重な戦力となった。
- (4) 新たな一時預かり保育利用者やリピーターも増え、特別な配慮が必要な子どもについても、できる限り受け入れをし、地域の福祉サービスの充実に貢献することを目的に行うことができた。
- (5) 職員の休暇保障・指導・相談対応等を主任が3人いたことにより相談しながら運営できた。
- (6) 東京都福祉サービス第三者評価受信した結果、総合的な満足度では「大変満足」と高い満足が得られた。利用者・職員のアンケート結果を整理していく。
- (7) 給食職員2人（怪我・介護の為）が途中退職し、給食室の運営は厳しい状態が続き、給食補助有期職員を雇用し、慣れるまで保育士が補助に入ったり等、体制を整えながらであったが、誤飲誤食もなく安心安全の食事提供ができた。事務時間の確保が勤務時間内でできず、超過勤務の保障をした。
- (8) 新型コロナウイルス発生の対応について、保育所における感染拡大防止のための留意点等を掲示し注意を促した。また、新型コロナウイルスの影響に関する情報やお願いを一斉メールで送信した。

10. 今後の課題

- (1) 保育環境の大事さと子どもが安心して遊びこめる空間設定を意識した環境設定
- (2) 新型コロナウイルスの状況により年間行事等の見直し、検討する。感染拡大防止のため、体調管理、手洗い、うがい、消毒の強化の徹底する。
- (3) 職員の経験年数が長くなり、保育の固定化にならないよう誰もが向上心を持ち、経験を問わず自分に足りないものを自覚し、積極的に学ぼうとする姿勢を持ち専門性をたかめていく。
- (4) 日々行う事務作業のスリム化・効率化に向けてIT化が進む中、委員会を設け少しずつ取り入れる方向性で進めていく。
- (5) 子育てしながらも長く働き続けられるように、事情を考慮した勤務体制を検討し、職員の就労が定着できる職場環境にしていく。
- (6) 法人内保育園施設の施設見学や情報を共有し、ベタニヤホームの保育を確立していく。
- (7) 保育園ホームページを積極的に更新し、園の最新情報が確認できる内容にしていく。